



視察を終えて

岡山大学法学部 1 回生
天崎滉介

始めに

「核燃料サイクル」



名前だけ聞いてどんなイメージですか？
. . . そもそも知ってますか？



というわけで・・・

現代に生きる若者である私の特権(大学生、
スマホユーザー、SNSなんて怖くない、
ネットとともに生きてきた、人と関わるな
んて朝飯前)を最大限生かしましてアン
ケート形式の調査を行いました
た!!!!!!!!!!!!!!

※注意1

現代の若者である私のネットワーク(交友関係)を駆使して行う調査であるため、主な回答者は10代後半～20代前半の現代を生きる若者たちです。これに対して

((あんだよ、なんも考えてねえ若い奴らの意見かよ・・・))

と思うか、

((マジで！？！？若者たちの貴重な意見！！お前最高！！！！))

と思うかは皆さん次第デス

ちょっとふざけすぎましたかね(汗)

※注意 2

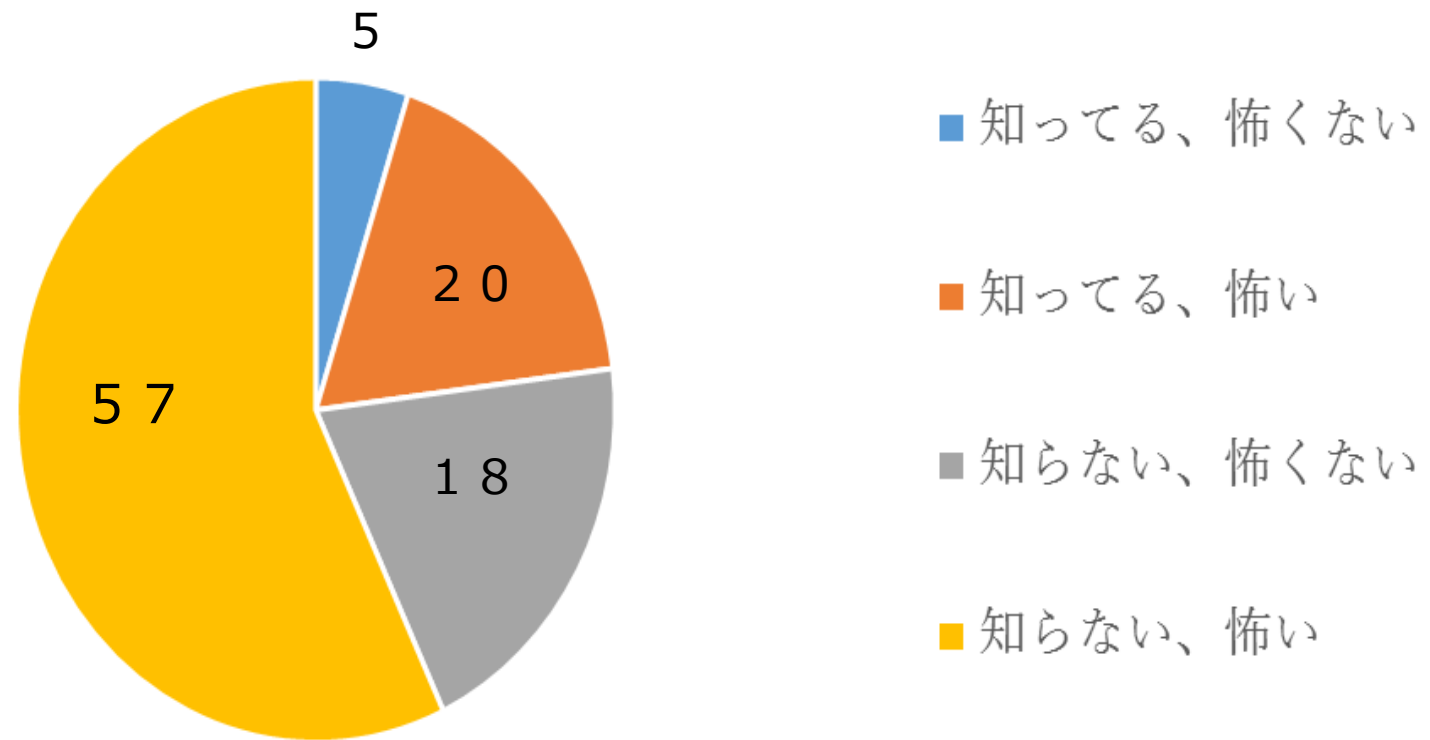
今日聞いてくださっている皆さんには少し物足りないかもしれませんが、今回のアンケートでは核燃料サイクル(施設)を

- 1、知っている、怖さを感じない
- 2、知っている、怖いと思う
- 3、知らないが、怖さは感じない
- 4、知らないし、怖いと思う

の4つに分類させていただきました。あまり難しくしてもいけないなと思ひまして・・・

調査：核燃料サイクルへのイメージ

核燃料サイクルについて(数字は人数)




調査結果

多くの人(調査対象は9割以上が高校生と大学生)が核燃料サイクルについて「知らない」けど「怖い」と回答してくれました。



そして、実は「核燃料サイクル施設視察前の私」も同じ考えでした。

ただ、怖いという感情は、2011年以降、「核」のもつ危険性を知ってしまった私たちにとっては、ある意味当然ともいえる考え方になっています。



そんな中で・・・

そんな中で、実際に核燃料サイクルの一翼を担う施設を視察させていただき、そこで体験したこと、考えたこと、感じたこと、フォーラムで言わないといけない、と思ったことの中から、「立地地域と核燃料サイクル施設の共生」というテーマについて話していきたいと思います。

立地地域の方々との意見交換

青森視察の際、低レベル放射性廃棄物埋設センターや再処理工場(原子力発電所から発生する使用済燃料を再処理するところ)などが村内にある六ヶ所村の住民の皆様、使用済燃料中間貯蔵施設が市内にあるむつ市の住民の皆様と意見交換会をさせていただきました。

(A 4 の紙 4 2 枚ぶんの議事録ができるほどの白熱した時間でした・・・)

意見交換会で印象に残ったこと①

「むつ市、六ヶ所村の住民の皆様全員が原子力発電所や核燃料サイクル施設に対して肯定的な意見、感情を持っていた」

ということがとても印象に残っています。



意見交換会で印象に残ったこと②

「核燃料サイクル施設が建設されたことで、立地地域の経済が豊かになった」

このような意見があったことにもとても驚きました。

意見交換会後 考えたこと



原発への今の考え①

いろいろなものを見て、いろいろなことを教えてもらった僕の今の原発への考え方は、「今は再稼働しても仕方がないけど、将来的には廃止してほしい」というものになりました。

危険性は多少なりともありますが、原子力による発電方式は、二酸化炭素の排出が少なく、価格変動の激しい石油に比べて、安価で、安定的に電力を供給でき、かつ燃料をリサイクルすることによって国産のエネルギー資源にもなるという大きなメリットがあるのです。


原発への今の考え②

ただ、原子力発電を続けるデメリットは、放射能事故の危険性だけではなく、「核のゴミ」問題にも存在します。そういった点を踏まえて、永続的に使う発電方式としては課題や危険も多いことから、将来的に廃止という言葉も追加しました。

「今」はいつまで続くのか、「将来」はいつやってくるのかはわかりません。ただ、日本がいつまでも電力を供給、使用できる国であってほしいと思いました。

フォーラムに参加して、伝えたいこと





伝えたいこと その1
原発についての考え 少し脱線

今回の視察に参加する前、僕は原発
反対派でした。

しかし、視察を終えて、僕はその考えを、前
述のように少し変えました。



伝えたいこと その2

百聞は一見に如かず！！

皆さま、ぜひとも原子力の関連施設を訪れてみてください！！

ご清聴ありがとうございました！！！！

